

弁当

母の視線を感じながら、僕は砂をかむようにしてごはんを口の中に押し込んだ。すると、予想通り母は夕飯を食べ終わるのを待っていたかのように、口火を切った。

「伸一、来週の進路懇談会どうするの。志望校は決めたの？」

「まだ……。今、考え中……。」

不機嫌そうに応える僕の態度に母は声を荒げた。

「いつ聞いても『考え中。』いったい高校へ行く気があるの？」

「分かっているよ。母さんはしつこいんだよ。」

「うるさいな。ほっといてくれ！」

僕は椅子を蹴るようにして立ち上がると、衝動的に家を飛び出していた。

しかし、勢いで飛び出したものの行くあてがなかった僕は、公園をしばらくさまよった後、竜介先輩の家を訪ねていた。

ドアホンを鳴らすと、竜介先輩の母親が驚いたように僕を見た。

「竜介先輩いますか？」

「いるけど……。こんな時間にいったいどうしたの？何かあったの？」

「伸一？おう。どうしたんだ？そんなところに突っ立ってないで、まあ、上がれよ。」

竜介先輩はそう言って、質問攻めをしそうな母親から僕を救うように、部屋へ連れて入ってくれた。

「どうした？また、母さんとけんかしたのか？」

「はい。進路のことで母さんともめて……。」

僕は、これまでたまっていた気持ちを一気に吐き出した。

ところが、竜介先輩は、そんな僕の話にこにこしながら聞いていた。そのことに気付いた僕は少しむっとした表情で言った。

「先輩、どうして、そんなにこにこしながら聞いています？前だったら、いっしょに母親の悪口を言って、二人で盛り上がったじゃないですか！」

「そうだったかな？俺も少しは大人になったってことかな？」

「え？」

「実は、伸一を見ていると、一年前の自分とあまりにも似ているんで、それがおかしくってさ。」

「先輩も？」

「そうなんだ……。実はおれも母さんと口げんかになってさあ……。」

それから僕は、竜介先輩に説得され、家に帰ることにした。帰り際に、先輩の母親が僕の母親に電話していたこと、そしてその時、僕の母が電話の向こうで泣きじゃくっていたことを聞いて、少し申し訳ない気持ちになった。

真夜中の夜道を一人とぼとぼと歩いていると、母や父や妹の顔が浮かんできた。

（母はまたいつものように単身赴任をしている父に泣きながら電話をしてるの



だろうか。父はどんなふうにも僕を叱るだろうか。妹はまた生意気な口で僕を責めるだろうか……。)

休山やすみやまに浮かんだ満月を見上げながら、僕は一人そんなことを考えていた。ともかく家に着いたら、謝ろうと決心していた。きつと母は、すごい怒鳴り声で僕を出迎えるに違いない。

僕は覚悟して玄関の前に立った。ドアは開いたままだった。ところが、家中はしいんとして誰も出てこなかった。後で妹に聞いた話だが、母は僕に泣き顔を見られるのがいやで出てこなかったらしい。僕は拍子抜けするとともに、謝るきっかけを失って、結局、そのまま黙って自分の部屋に入り朝を迎えた。

電話が鳴って母の話し声が聞こえた。相手は父らしい。それから父と母は長い電話をしていたようだった。

その朝、母は怒った顔をしたまま食事中も、ひとことも口を利いてくれなかった。僕もなんだか意地になって、わざと口を利かなかった。

それでもテーブルの上にはいつも通り、妹の弁当と並んで僕の弁当包みが置いてあった。

「お兄ちゃん！ 弁当だけは忘れないでよ。」

妹はそう言っ勝手に僕のかばんにその弁当を突っ込むと先に家を出た。

四校時が終わり、僕は弁当の包みの中に一通の手紙を見つけた。

伸一、昨日は母さんが言い過ぎました。正直言っ、母さんもういらしてしまいました。本当は、あなたの方が、母さん以上に辛いこともあるのね。あなたとけんかをした後、父さんとも電話で話しました。家族みんな、あなたの心の支えになっていくと。

今、あなたは迷っていますか。悩んでいますか。

それが大切だと母さんは思いますよ。あなたは今、自分の道を探さないといけないときだから、しっかり迷って、悩んで下さい。そして、これが自分の決めた道だと胸を張って言えるようにして下さい。もし、頑張ることに疲れたら、休めばいいですよ。父さんも母さんも、いつもあなたの味方だし、応援しています。自分に自信をもって、前向きにね。あなたを信じて見守っています。

母より

僕は胸がいっぱいになっていた。

(でも、母に似て意地っ張りの僕はきつと帰ってからも、母こそ正直に射ることなんてできないだろうな。)

学校から帰って僕の弁当箱を開いた母が声を上げた。

「あら、めずらしい。今日は一粒残らず食べてる。」

「お兄ちゃんらしい。」

台所で母と妹の笑い声がした。

ソファに寝そべっていた僕はなんだか恥ずかしくなつて二階にかけ上がった。

そして、僕は家族一人一人の顔を思い浮かべながら、机の引き出しにしまいこんでいた進路希望調査表を広げた。

